

動物実験部会

目的

- (a) 大学等における動物実験を伴う生命科学研究は、人の健康・福祉・先端医療の開発展のみならず、動物の健康増進等における研究分野の進展においても必要な手段である。本部会は、「動物愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する法律」、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を踏まえ、日本学術会議が作製した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点、及び環境保全の観点、並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、動物実験等の実施の方向を検討する。
- (b) 動物実験計画については、計画書を提出させ、実験が適正な計画に基づいているかを審議する。特に動物実験が動物愛護の精神に沿っているか、また、実験計画が理に叶っているかを審議し、実施の可否を決定する。実験動物の愛護については、「研究機関における動物実験等の実施に関する基本指針」等の定めるところに則って、動物の数は適正か、飼育方法、手術の場合は動物に与える苦痛の程度、麻酔の有無、最終的な処分方法、などについても審議する。
- (c) 動物実験実施者に対する講習会を行う。動物愛護に基づく法規の概略、および実地における注意事項を説明する。動物実験実施者は毎年1回受講する義務がある。講師は中央研究施設長とする。

動物実験部会 構成 2023年度

部会員等の構成		数
施設長	1号委員	1名
動物実験等有識者	2号委員	1名
実験動物有識者	3号委員	1名
その他の学識有識者	4号委員	1名

動物実験講習会 開催日 (2023年4月 現在)

(2023年度動物実験に関わる者が対象)

	開催日	受講人数
第30回	2023年 3月3日	9名
第31回	2023年 3月7日	11名
第32回	2023年 3月15日	4名

動物実験講習会 資料

- 資料1 動物の愛護及び管理に関する法律 (2022年6月17日 改正)
- 資料2 動物実験処置の苦痛分類に関する解説 及び 倫理基準による医学生物学的処置に関する分類 (国立大学動物実験施設協議会 2004年6月4日)
- 資料3 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準 (環境省告示 2006年4月28日) (2013年改訂)
- 資料4 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針及びその概要 (文部科学省 2006年6月1日)
- 資料5 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン (日本学術会議 2006年6月1日)
- 資料6 ヘルシンキ宣言 (2013年改訂)
- 資料7 藍野大学動物実験規程 (動物実験計画書含む) (2022年10月12日改訂)
- 資料8 藍野大学中央研究施設使用細則及び別紙1～15 (2022年9月16日改訂)

2023年度 承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
2	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	更新
3	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新
4	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	更新
5	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	新規
6	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	新規
7	オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究	更新

8	微小重力環境における内耳に関する研究	更新
9	内耳再生に関する研究	更新
10	Lmo2 転写因子複合体による内耳血管新生制御に関する研究	更新
11	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	更新
12	腎臓に発現する新規分子の解析	新規
13	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	更新
14	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	更新

2022 年度 承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
2	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	更新
3	オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究	更新
4	内耳再生に関する研究	更新
5	微小重力環境における内耳に関する研究	新規
6	Lmo2 転写因子複合体による内耳血管新生制御に関する研究	新規
7	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	更新
8	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新
9	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	更新
10	小動物（ラット、ラビット）の体外循環での慢性モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	更新
11	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	更新
12	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	新規
13	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	新規

2021年度 承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
2	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	更新
3	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新
4	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	新規
5	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	新規
6	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	更新
7	オルガノイドを用いた内耳再生に関する研究	更新
8	微小重力環境における内耳に関する研究	更新
9	内耳再生に関する研究	更新
10	Lmo2 転写因子複合体による内耳血管新生制御に関する研究	新規
11	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	更新
12	腎臓に発現する新規分子の解析	新規
13	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	更新
14	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	更新

実験動物慰霊祭

2022年11月14日（月）にD棟セミナー室にて、実験動物のための慰霊祭を執り行いました。慰霊祭は参列者全員が黙祷を行った後、学長、施設長からの挨拶と慰霊のことばが述べられました。最後に、尊い命を捧げてくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が献花をしました。



動物実験に関する外部検証

2017年10月25日（水）に、公益社団法人実験動物学会外部検証委員会による「動物実験に関する外部検証」を行いました。

検証結果（別ファイル参照）

動物実験に関する自己点検・評価報告書

上記外部検証の報告書に従い、指摘点を改善し、
2021年度における「動物実験に関する自己点検・評価報告書」を作成しました。

様式 1-2（別ファイル参照）